

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第164号

ななえ古写真物語 VOL. 164

所有者の謎

明治天皇蓴菜沼御小休所の碑

昭和10年ころか

西大沼地区



気のせいだろうか、前にもこの写真を掲載したような気がするのだが、今回は石碑の移設について覚書代りに記すため取り上げることとする。

七飯町西大沼には蓴菜沼という湖がある。明治5年に宮崎重兵衛という人物がそのほとりに旅館を建てた。いわゆる宮崎旅館である。写真左側に見える高床の建物なのだが、正面からは茅葺民家にしか見えないつくりである。詳細については、ピチャリ第8号に記している。

紹介する石碑は、明治14年の明治天皇北海道御巡幸の際、明治天皇が宮崎旅館でお休みになられたことを記念して建立したものである。御膳水を献上したことや、その時の出来事などは、ピチャリ第81号に記している。

さて、この石碑なのだが、国道の拡張工事により、この辺りがスロープとなることで、石碑が死角となってしまい、見学もままならなくなるため、7月に約10mほど横へ移設した。地域の声と函館開発建設部のご厚意で、移設への流れがつけられた。当館の仕事は、石碑の所有者を確かめると、工事実施日に立会することなのだが、これが意外にも難問となったのである。

所有者の確認は、容易だと思っていた。なぜかという石碑の建立は、宮崎家によるものだと想像していたので、宮崎家もしくは、現在の所有者である北海道のどちらかだろうと、タカをくくっていたからである。しかし道からの回答は「所有者はわからない」ということ。土地のやり取りについては記載があっても、石碑についての記載がなかったというのである。

石碑の側面には「史蹟名称天然記念物保存法に撚り昭和八年十一月文部大臣指定」と刻まれているが、建立者の情報は見当たらなかった。さらに、文部省の文字が見られる写真の史跡看板は現存していないが、日付が昭和10年3月となっている。これらのことから考えて、石碑の建立は昭和10年頃とみて間違いないだろう。

戦時中の混乱の為、所有者が不明になってしまったのかは、今となってはわからないが、結果、北海道でも、町のものでもない石碑を移設した形となった。でも移設しなければ、石碑の存在は忘れられていただろうと想像すると、新たな場所で歴史を伝える石碑の姿を一度ご覧いただきたい。

9月の予定

「自然の見方、ななえの石」

7月7日(水)は夜の博物館第3夜を行いました。講師を務めて下さったのは、H・O・H(函館・渡島・桧山理科サークル)の中嶋久氏。小学校の教員生活の中で、子どもたちに向けて発行したお便り「自然だより」を続けていく中で、自然への関心をひろげるには、自分自身が楽しむことが大切。とおっしゃっているように、自然の見方の紹介例では、七飯町で見られる球面状に割れる安山岩を発見した時の驚き、エナガの巣のビデオ観察記録、ピリカ海牛の骨のクリーニングのはなし、金環日食の魅力など、様々なジャンルでありながら、どれも楽しそうにお話する中嶋氏の姿が、とても印象的でした。

知りたいという欲求に対し、素早い行動で答えまでたどり着く中嶋氏のユーモラスな話もあり、参加者の笑いに包まれた講座になりました。



1	水	夜の博物館前期講座 第4夜
2	木	ロビーパネル展開催中
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	ロビーパネル展最終日
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	敬老の日
21	火	ピチャリ発行予定
22	水	
23	木	秋分の日
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	

駒ヶ岳に登る

今回のジュニア探検クラブは、駒ヶ岳登山を行いました。暑い一日だったので水分補給をマメにしながら、植物を探したり、大沼の景色を眺めたり、セミの声に耳を傾けたり、鳥の姿を目で追いながら、ゆっくりと「馬の背」を目指します。到着後はすぐに昼食の時間となり、それぞれが岩に腰かけ休みました。

下山時にはイワギキョウやイワブクロなどを観察し、まばらに剣ヶ峰を覆っている緑が、どの様にひろがっていくのかを考えました。下山の方が危険だからね。といわれても、スピードを上げて歩く子どもたちが遅かったです。



9月の休館日はありません

ロビーパネル展

縄文時代の暮らしについてのパネル展開催中です。楽しんでください。



編集後記 ~tawagoto~

カラスアゲハが水辺に集まっている様子を眺めていた。10頭位いたろうか、地面に舞い降り吸汁するチョウ、突っ立っている私の横を不規則なスピードで通り過ぎていくチョウ。翅をはばたかせると黒色のなかに青い金属光沢の模様が目に飛び込む。チカチカと反射する様は、何かの信号を送られているのかと錯覚しそうになる。この景色をボーっと眺める時間は、夏の楽しみでもあるのだが、それにしても今年は異常に暑かった(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari 第164号

令和3年8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp